31-9

要保存 必ずお読みください。

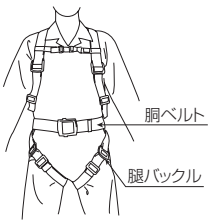
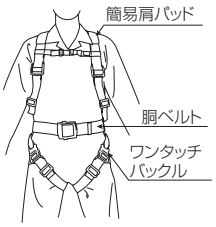
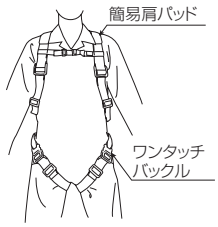
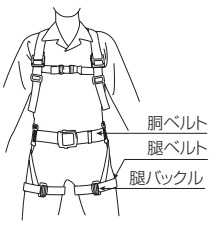
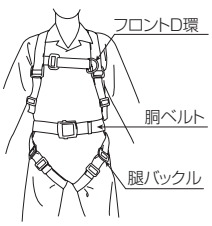
サンコー株式会社

ハーネス型安全帯
タイタン フルハーネス シリーズ 取扱説明書
厚生労働省「安全帯の規格」適合品＜1本つり専用＞

この度は、タイタンハーネス型安全帯「イージーハーネス」「TBハーネス」をお買い上げいただきましてありがとうございます。（以後、「ハーネス」と示す。）
この製品は、建設現場・工場などの高所作業で作業者の墜落を防止するためにお使いいただく製品です。
ご使用になる前に必ずご購入された型式と、この取扱説明書をよく照らし合わせてお読みいただき、内容をご理解ください。特に ⚠危険・⚠警告・⚠注意の項目は、事故を未然に防ぐために厳守してください。あわせてこの取扱説明書は大切に保存していただき、紛失された場合には当社にご請求ください。

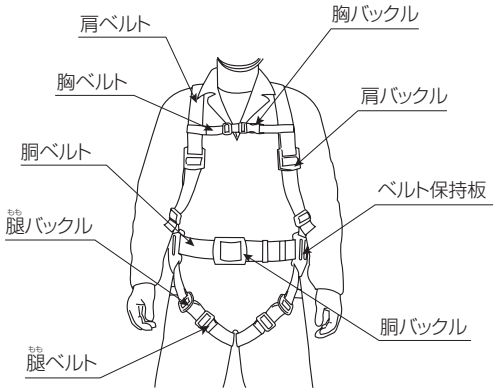
※併用するS-スライド・ロープチャック・セイフティブロック（リトラクタ）・親綱等の取扱説明書も必ずお読みください。

1.型式及び特徴

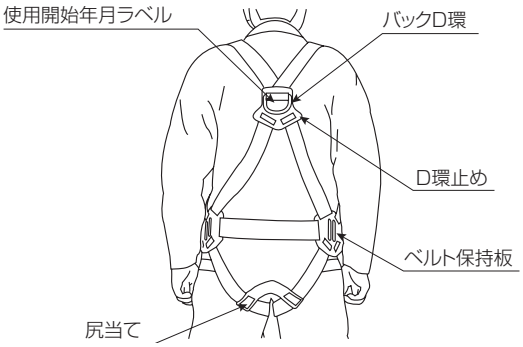
	特　徴	胴ベルト付	胴ベルト無し
イージーハーネスシリーズ	肩・腿（もも）の調節金具採用のベーシックタイプ	EHN-9B型 	EHN-10B型
	簡易肩パッド、腿（もも）部にワンタッチバックルを採用した上質モデル	EHC-9A型 	EHC-10A型 
TBハーネス	腿（もも）ベルトがV字にならないタイプ	TB-9B型 	TB-10B型 胴ベルトとの併用を推奨します。
フロントD環付タイプ	S-スライド・セイフティブロック等のフックが掛け易い	FDN-9B型 	FDN-10B型
導電・防爆型	導電性繊維入りベルト・真ちゅう製金具を採用しています。 ベルト色 グリーン／オレンジ	――	EH-10LSE型

2.各部の名称

■EHN-9B／10B型　→　EHN-10B型には胴ベルトは付いていません。
■EH-10LSE型　→　胴ベルトは付いていません。
（導電・防爆型）

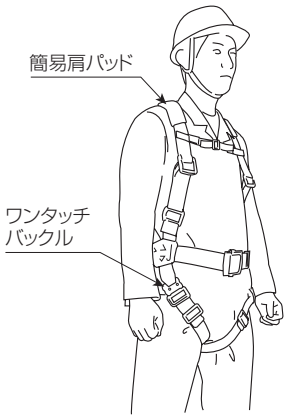


＜EHN-9B型　正面＞



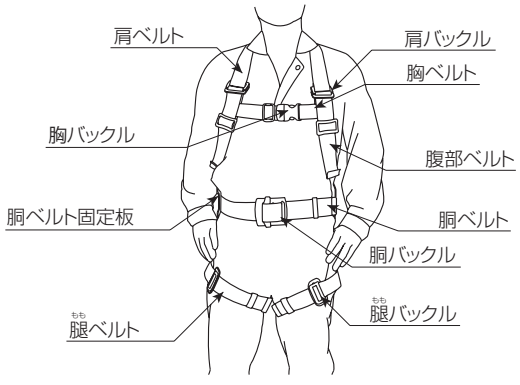
＜EHN-9B型　背面＞

■EHC-9A／10A型　→　簡易肩パッド、腿部にワンタッチバックル採用
EHC-10A型には胴ベルトは付いていません。

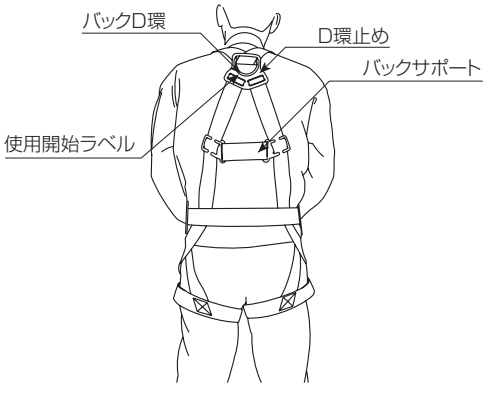


＜EHC-9A型＞

■TB-9B型／10B型　→　腿ベルトがV字にならないタイプ
TB-10B型には胴ベルト、胴ベルト固定板は付いていません。
TB-10B型は胴ベルトとの併用を推奨します。

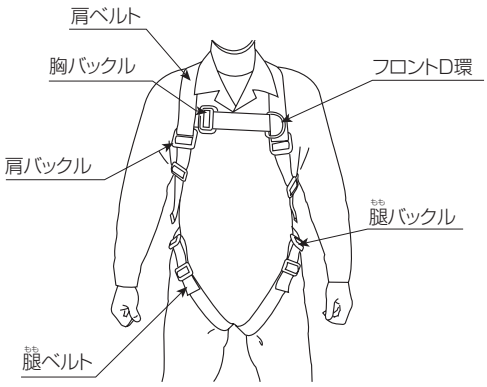


＜TB-9B型　正面＞

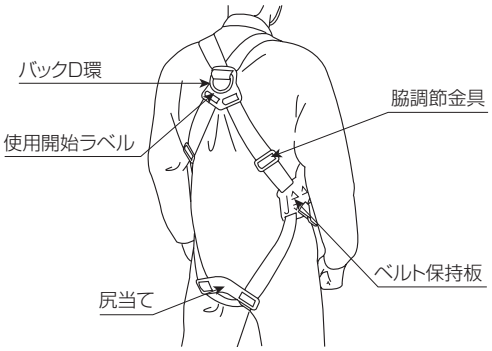


＜TB-9B型　背面＞

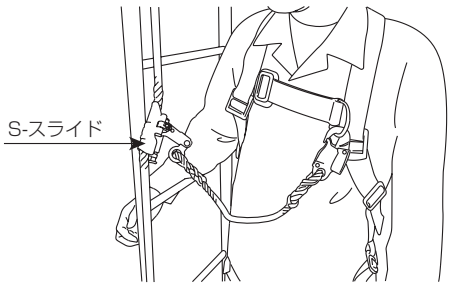
■FDN-9B／10B型　→　フロントD環付タイプ
FDN-9B型は胴ベルトが付いています。



<FDN-10B型　正面>



<FDN-10B型　背面>



●S-スライド使用例

3. 使用条件

⚠ 警告　誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、やめてください。

①墜落防止及び救助以外の目的で使用しない。
②通常作業が可能な温度範囲（目安として－ 10℃～＋ 50℃）で使用する。

⚠ 注意　安全にお使いいただくためにお守りください。

①U字つり・宙つりなど体重をかける作業には使用しない。

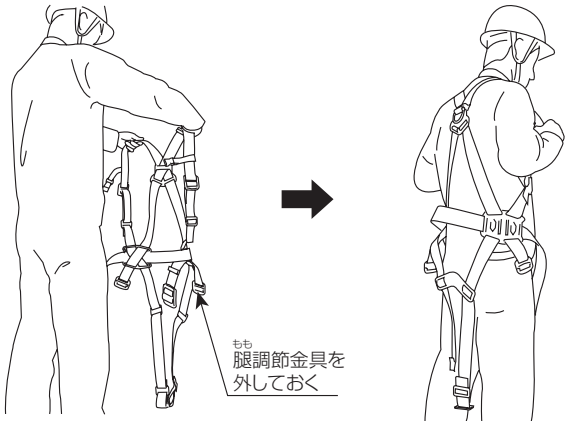
4.使用前点検

①毎回使用前に取扱説明書をよく読み、正しい使用方法を確認する。
②毎回使用前に必ず、［9.点検・廃棄］の内容に従って各部の点検を行う。
③併用するランヤードに付いても②と同様に点検を行う。
④新しい製品を使用する前には、背中のD環止め部の使用開始年月ラベル（［10.交換の目安］参照）に、使用を開始した年月を必ず記入する。

5.装着方法(図は全て一例を示す)

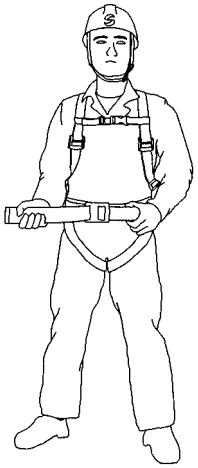
■対応型式　EHN-9B／10B型(ベルト色：レッド／ブラック)　EHC-9A／10A型(ベルト色：イエロー／ブラック)　EH-10LSE型(ベルト色：グリーン／オレンジ)　TB-9B／10B型(ベルト色：ネイビーブルー／ブラック)

①一度、腿バックルを外した後、肩ベルトに腕を通すようにして装着する。



②胸ベルトの胸バックルを差し込む。
たるみがないよう(胸が苦しくない程度)に胸ベルトの長さを調節する。(P.7参照)

③胴ベルトを装着する。
(P.7参照)
(胴ベルトがあるモデルのみ)

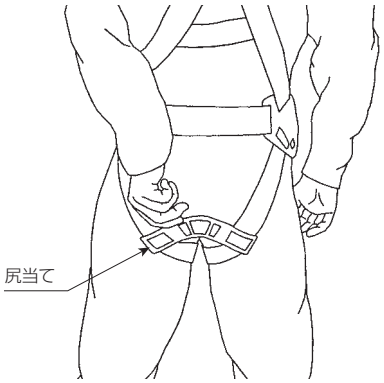


④腿部に腿ベルトを通した後、再び、腿バックルを連結する。(P.7～8参照)

⑤身体全体にたるみがでないように、肩バックルでベルトの長さを調節する。(P.7参照)

⑥身体全体にたるみがでないように、腿バックルで腿ベルトの長さを調節する。(P.7～8参照)

⑦尻当てが正しい位置にきていることを確認する。
※尻当てがあるモデルのみ

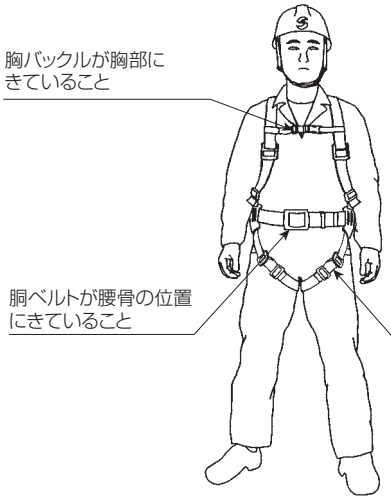


⑧腿(もも)バックルがワンタッチバックルのものは、差込板を本体にカチッと音がするまで差し込み、装着してください。(P.8参照)

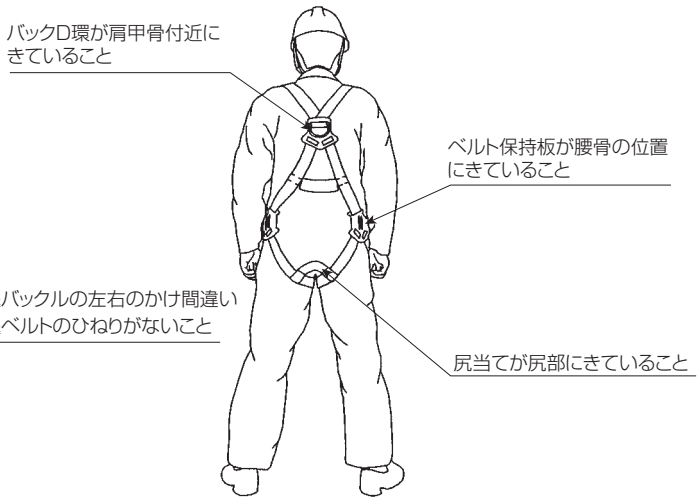
⑨装着後に、胸ベルト・バックD環・尻当ての位置を確認する。

《正しい装着例》

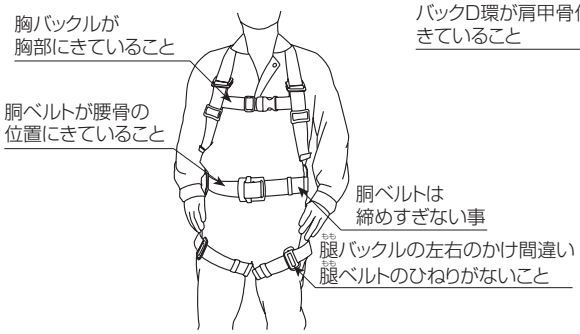
＜EHN-9B型　正面＞



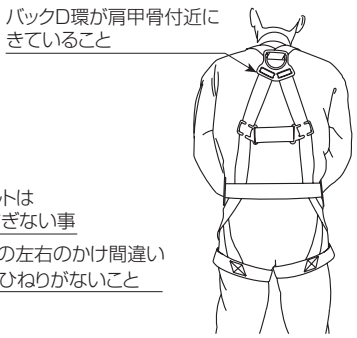
＜EHN-10B型　背面＞



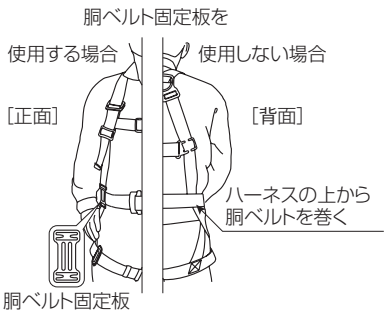
＜TB-9B／10B型　正面＞



＜TB-9B／10B型　背面＞



※TB-10B型は胴ベルトとの併用を推奨します。

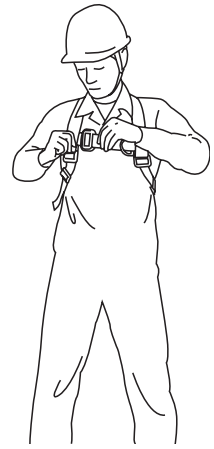


※肩・腿(もも)・胴ベルトはたるみがなく、かつ、締め過ぎないように調節してください。

■対応型式　FDN-9B／10B型

①肩ベルト(レッド)に腕を通すようにして装着する。

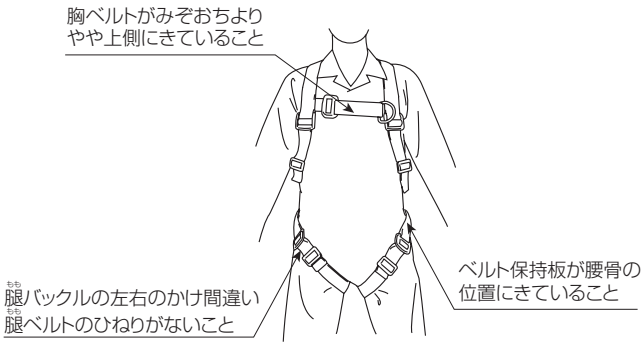
②胸ベルトを装着する。
胸ベルトには長さの調節機能は付いていません。



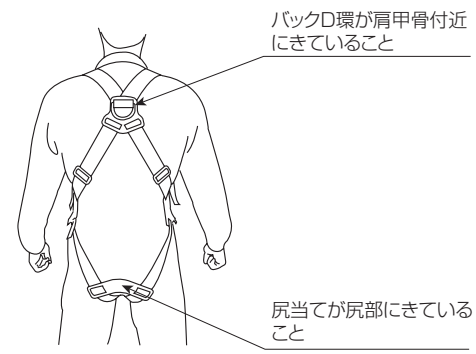
③腿部に腿ベルト(ブラック)を通した後、再び、腿バックルを装着する。(P.7参照)
※FDN-9B型は胴ベルトも装着してください。(P.7参照)

《正しい装着例》

<FDN-10B型　正面>



<FDN-10B型　背面>



※肩・腿・胴ベルトはたるみがなく、かつ、締め過ぎないように調節してください。

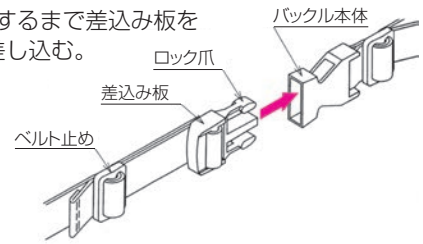
各バックル及び調節金具の挿入・操作方法

●胴ベルト用バックルの挿入方法(胴ベルトをご使用の場合)

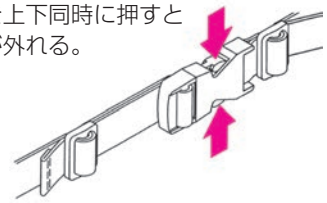
①バックル裏面の刻印 1 から胴ベルトを通す。 ②バックル表面の刻印 2 へ胴ベルトを通す。

●胸バックル操作方法(EHN-9B／10B型・EHC-9A／10A型・TB-9B／10B型・EH-10LSE型のみ)

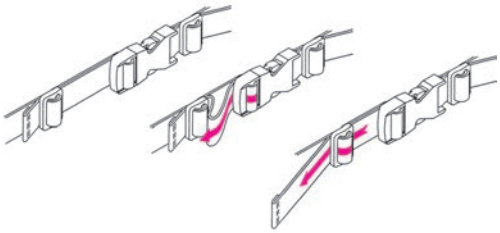
<連結方法>
“カチッ”と音がするまで差込み板を
バックル本体に差し込む。



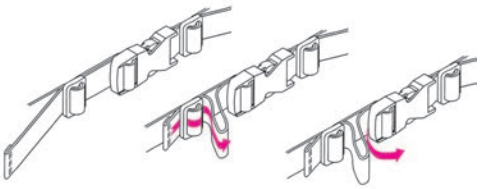
<解除方法>
ロック爪を上下同時に押すと
差込み板が外れる。



<短くする場合>



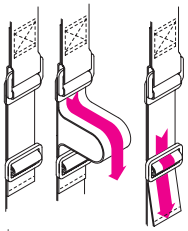
<長くする場合>



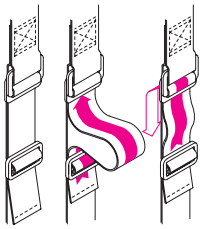
●肩バックル操作方法

イージーハーネス
(EHN-9B／10B型・EHC-9A／10A型・FDN-9B／
10B型・EH-10LSE型)／TBハーネス(TB-9B／10B型)

<短くする場合>

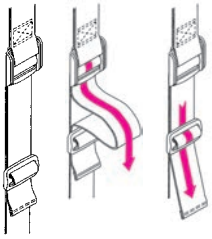


<長くする場合>

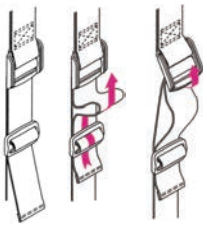


導電・防爆型
(EH-10LSE型)

<短くする場合>



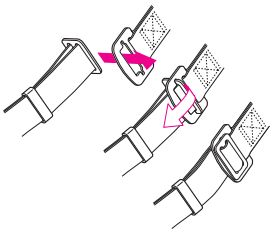
<長くする場合>



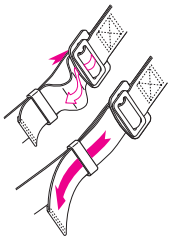
●腿(もも)バックル操作方法
(EHN-9B／10B型・FDN-9B／10B型・TB-9B／10B型・EH-10LSE型のみ)

※外す際は取り付けと逆の手順で外してください。

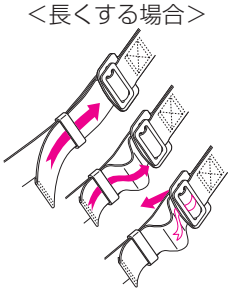
<連結方法>



<短くする場合>

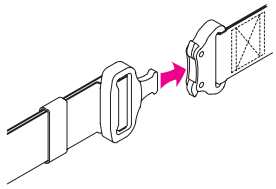


<長くする場合>

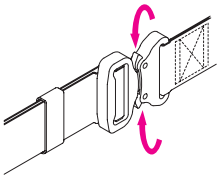


●腿（もも）用ワンタッチバックルの操作方法（EHC-9A／10A型のみ）

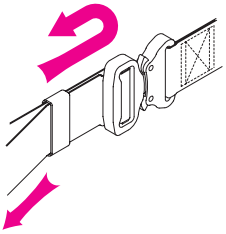
＜連結方法＞
“カチッ”と音がするまで差し込み板を差し込む。



＜解除方法＞
爪を上下同時に押すと差し込み板が外れる。



＜ベルト調節方法＞
差し込み板側のベルトを引っ張り調節します。

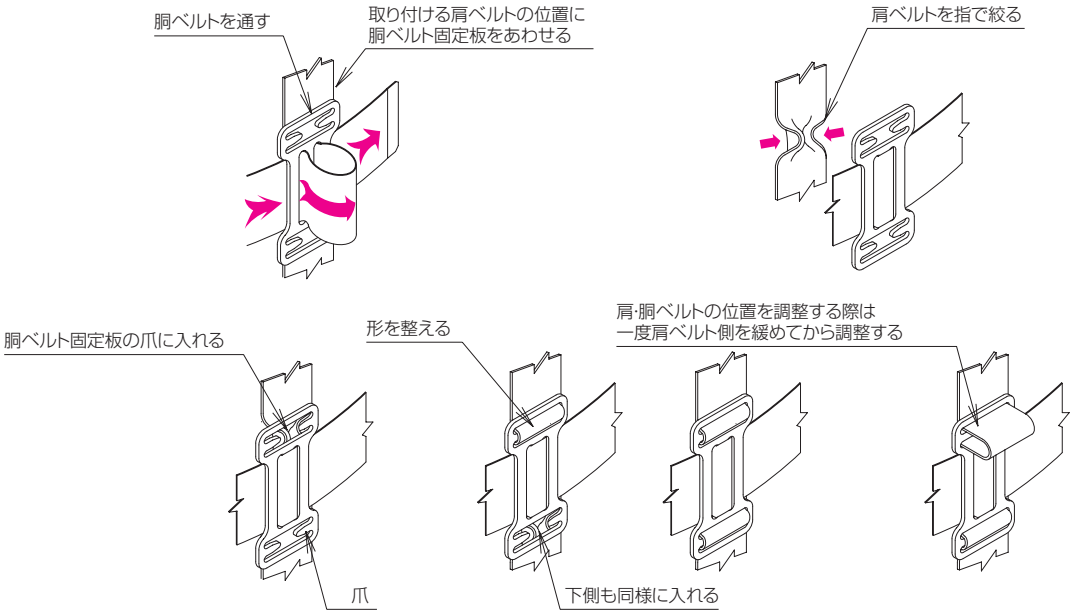


●脇調節金具操作方法（FDN-9B／10B型のみ）

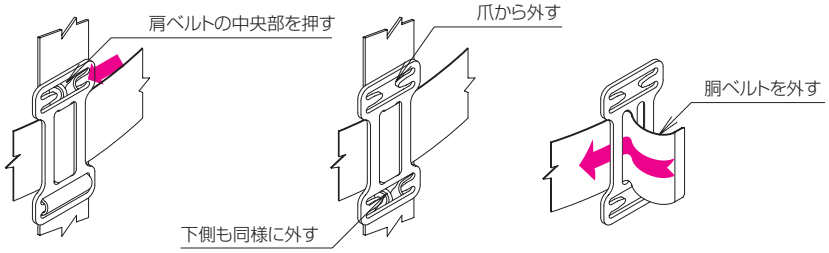
＜短くする場合＞

＜長くする場合＞

●胴ベルト固定板取付方法（TB-9B型のみ）



●胴ベルト固定板取り外し方法（TB-9B型のみ）



⚠ 警告 誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、やめてください。

①ハーネスは正しい方法で装着し、胸ベルトを(胴ベルトがあるものは胴ベルトのバックルを含む)確実に連結し、胸ベルト・肩ベルト・腿(もも)ベルトの長さをたるみがなく、かつ、締め過ぎないように調節する。誤った装着・調節は、墜落阻止時に抜け落ちたり、身体が圧迫される恐れがある。

②装着時に各ベルトがねじれないように注意する。ねじれた状態で装着すると身体が圧迫されたり、墜落阻止時に身体に食い込んだりする恐れがある。

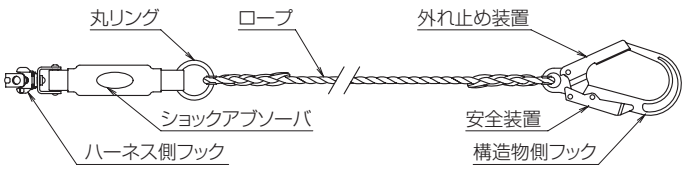
③胸ベルト・肩ベルト・腿(もも)ベルト・バックD環・尻当て・ベルト保持板等が誤った位置に装着されている場合は、適正な位置になるように装着し直す。

④ランヤードもしくは手元ストラップに、ショックアブソーバが付いていない状態では使用しない。

6.使用方法

バックD環に取り付けて使用する場合

〈ハーネス用ランヤード〉



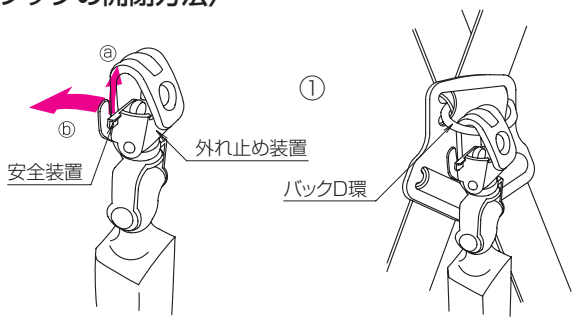
※ロープ式以外のハーネス用ランヤードをご使用の際は、
当該品の取扱説明書をご覧ください。

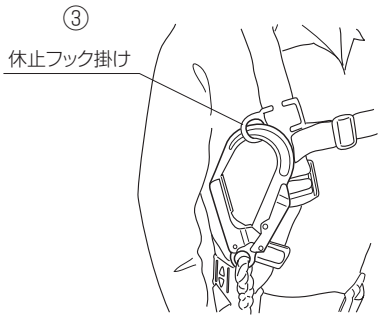
①ランヤード(別売品)のハーネス側フックをハーネスのバックD環に取り付け、もう一端のフックを構造物に取り付けて使用する。
※ランヤードは「ハーネス用ランヤード」をご使用ください。

②ランヤードをハーネスのバックD環に取り付ける際は、ハーネスの装着前に取り付ける。装着後に取り付ける場合は別の人に確実に取り付けてもらう。

③ランヤードをハーネスに取り付けた状態で、フックを使用しない時は、休止フック掛けに掛けておく。

〈フックの開閉方法〉

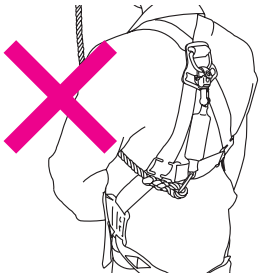




④ランヤードは脇／股に挟まないようにする。

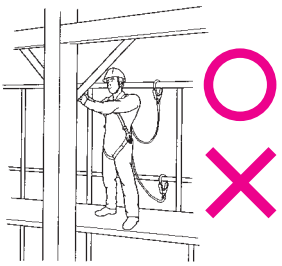
⑤フックを掛ける構造物は、抜けたり外れたりするおそれがなく、墜落阻止時の衝撃にも十分耐えられる堅固なものを選ぶ。

④



⑥フックを掛ける位置は、バックD環より上のできるだけ高い位置で、墜落阻止時に床面や構造物等に激突するおそれのない箇所とする。（ショックアブソーバは最大約65cm伸びるので注意する）

⑥

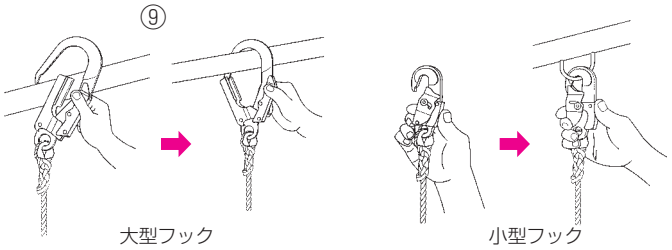


⑦水平親綱と併用する場合は、ランヤードのフックを親綱に掛けて、作業及び移動を行う。

⑧セイフティブロック（リトラクタ）、セイフスライダーと併用する場合は、それらのフックをバックD環もしくは、丸リングに直接掛けて作業及び移動を行う。

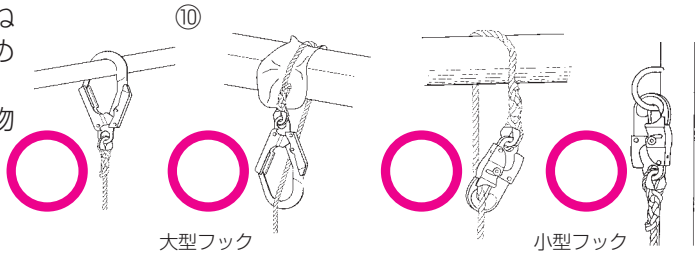
⑨フックは安全装置と外れ止め装置を同時に押さえて開き、構造物に掛けて閉じた後、外れ止め装置が確実に閉まっているか確認する。

⑨



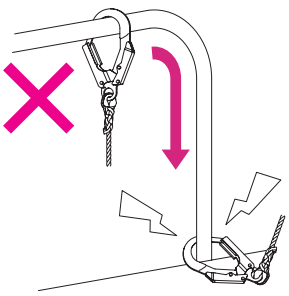
⑩フックは、墜落阻止時にフック本体がねじれて変形したり、安全装置と外れ止め装置に荷重がかかったりしないように、右図のような正しい方法で取付け構造物に掛ける。

⑩



⑪フックが手すりより滑り落ちる状況が発生する場合は、フックが破損するおそれがあるので使用しない。

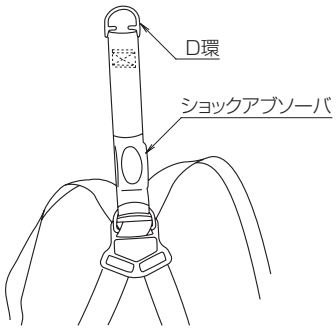
⑪



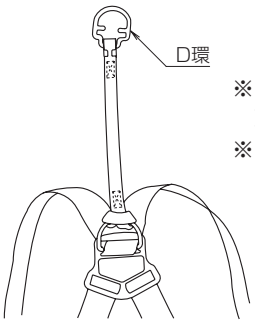
手元ストラップに取り付けて使用する場合

※手元ストラップには以下の通り2つの種類があります。ご使用の手元ストラップをご確認いただき、正しく使用してください。

-SAJ 仕様
（ショックアブソーバ付）



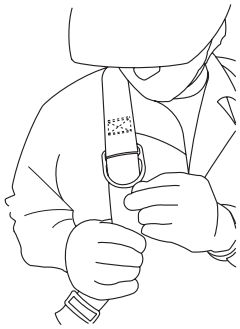
-STJ 仕様※
（ショックアブソーバ無し）



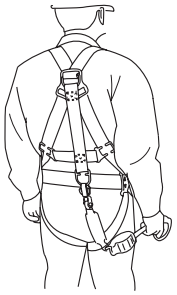
※STJはオプション単品を購入後、お客様で取付が可能です。
※STJは必ずショックアブソーバがついているランヤードと併用してください。

①ランヤード(別売品)のハーネス側のフックを手元ストラップのD環に取り付けて使用する。
②手元ストラップのD環を使用しない時は肩ベルトに取り付けてください。
③使用時は肩ベルトから外した状態で使用してください。
④ランヤードをハーネスに取り付けた状態で、フックを使用しない時は、休止フック掛けに掛けておく。

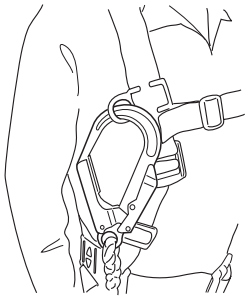
②



③

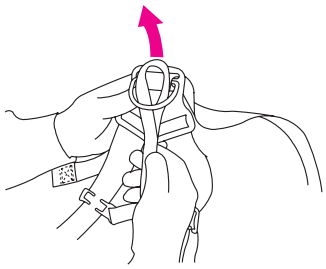


④

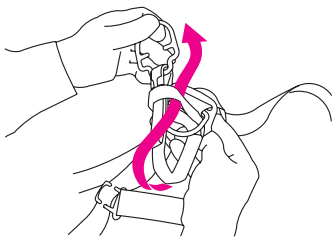


■手元ストラップ［-STJ］の取り付け方法

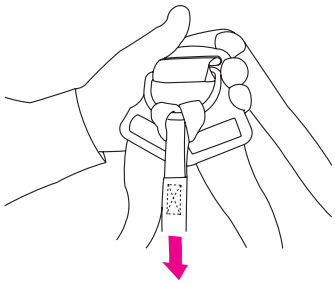
①手元ストラップのアイの部分をハーネスのバックD環に通す。



②バックD環に通した後、手元ストラップのアイの部分に、手元ストラップのD環を通す。



③手元ストラップを引き込み、アイ部分を絞り込み、取り付け完了。



フロントD環に取り付けて使用する場合　※フロントD環付ハーネスは次の事項もお守りください。

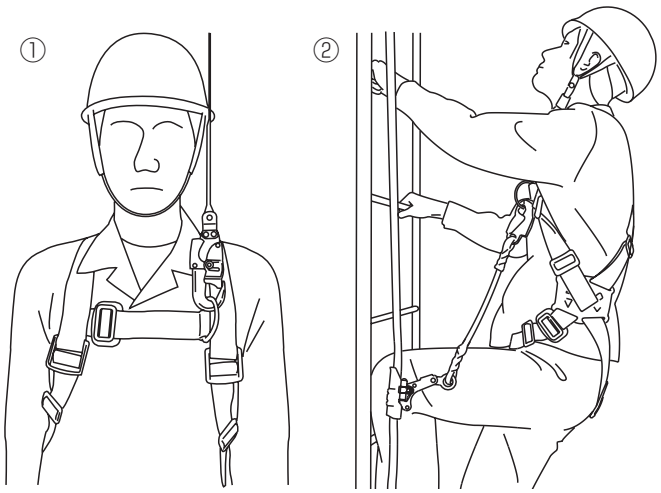
■対応型式　FDN-9B／10B型

●通常はバックD環にランヤードを接続して使用するものとし、他の墜落阻止器具を併用しての移動時などにフロントD環を使用するようにしてください。

①セイフティブロックやエスコートレールなどで昇降する場合は、それらのフックをイージーハーネスのフロントD環に直接掛けて使用することができる。

②S-スライド、ロープチャックなどを使用する場合は、フロントD環にそれぞれのフックを掛け昇降を行う。

③フロントD環・バックD環共に、U字つり等で体重を掛けて使うことはできない。

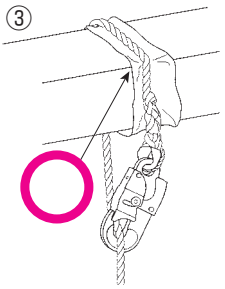


⚠ 危険　誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、絶対にやめてください。

①ランヤードのフックは、抜けたり外れたり、墜落阻止時の衝撃で壊れたりするおそれのある構造物には掛けない。

②強度不足や劣化のために、墜落阻止時の衝撃で切断するおそれのあるハーネス・ランヤードは使用しない。

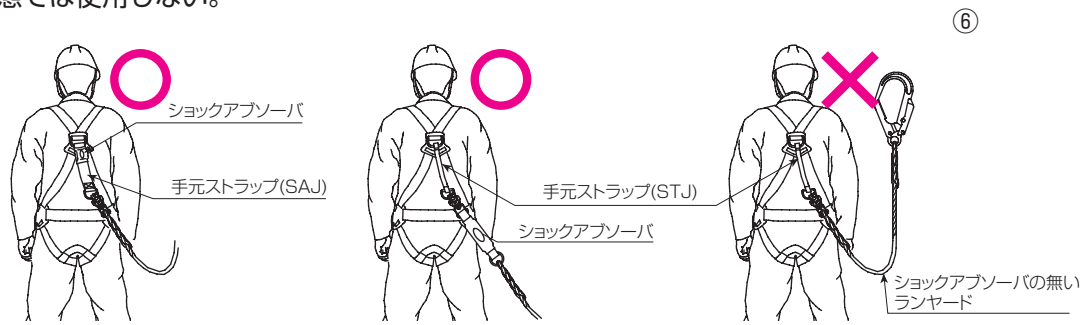
③ロープが切断するおそれがあるので、墜落阻止時に鋼材等の鋭い角にロープが当たらないようにし、やむをえない場合は布等を当てて直接触れないようにする。



④ハーネス装着後に、バックD環にランヤードを取り付ける時は、確実に取付けられているか確認ができないので、１人では取り付けない。

⑤休止フック掛けにランヤードのフックを掛けて、U字つりの状態で使用しない。

⑥ランヤード、手元ストラップのどちら側にも、ショックアブソーバの無い状態では使用しない。

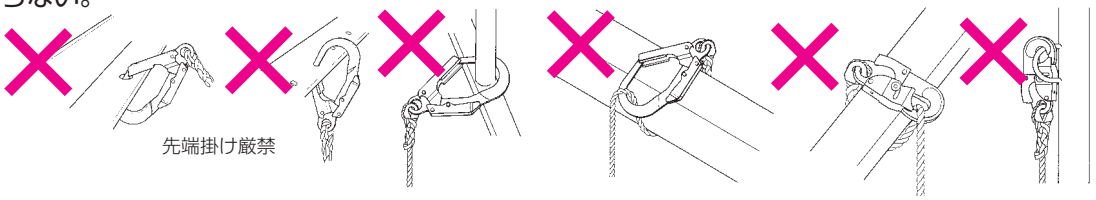


⑦ロープ式のランヤードを使用する場合、工具等を含む使用者の体重は120kgを上限とする。その他のランヤードをお使いの方は、当該品の取扱説明書をご参照ください。

⑧ハーネス、ランヤードは改造しない。

⚠ 警告　誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、やめてください。

①下図のようなフックの掛け方は、墜落阻止時に構造物から外れる危険性があるので絶対にしてはならない。



②ランヤードのフックをバックD環及びフロントD環より下の位置に取り付けてはならない。取付け位置が低いと墜落阻止時の衝撃が大きくなる。

③溶接の火花・強い酸やアルカリ・油・その他、高温高熱の物体や化学薬品類が製品にかかったり触れたりしないようにする。

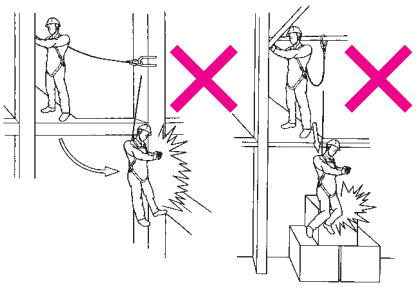
④金具の衝突・静電気による火花で爆発・引火する可能性がある場所や、ガスや粉塵の濃度が高い所で使用する場合は＜EH-10LSE型(導電・防爆型)ハーネス＞を使用する。その場合、静電服・静電靴を併用する。

⑤ロープは水分を含むと電気をよく通すので、特に雨の日などは感電に注意する。

⑥万一墜落した場合、振子状態になり構造物に激突する可能性のある箇所には、フックを取り付けない。

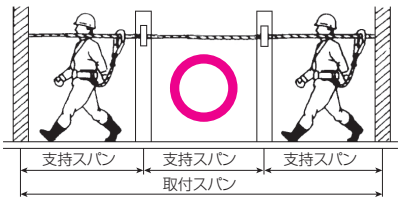
⑦直下の床面や物体との距離が短い場合は、墜落阻止時に激突しないように、十分高い位置にフックを取り付ける。（ショックアブソーバは最大約65cmの伸びがあるので注意する）

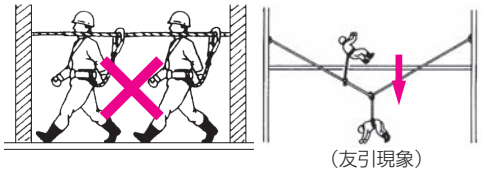
⑧クレーンやセイフティブロック(リトラクタ)のフック等移動するものにランヤードのフックを掛けない。



⑨ランヤードを結んだりくくりつけたりして使用しない。

⑩水平親綱を使用する場合は、１つの支持スパン(支柱と支柱の間)につき使用者は１名のみとする。１つの支持スパンに２名以上で使用すると、墜落時に友引現象が起こるおそれがある。また、親綱の取付スパンには、使用者は２名までとする。





⑪水平親綱を使用する場合は、支柱のところでフックを掛けかえるときに墜落しないよう注意する。

⚠ 注意　安全にお使いいただくためにお守りください。

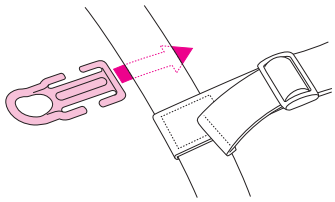
①ハーネス・ランヤードを引きずらない。
②ベルト・ロープをねじって使用しない。
③シノー等工具類を携帯する場合、それらを胴ベルトや肩・胸・腿(もも)ベルトとからだの間に直接差し込まない。
④ハーネス、ランヤードは同一メーカー(当社製品)のものを使用する。

7.各部品の取り付け方法

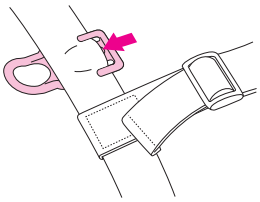
※以下の部品が外れた場合は下記の手順に従って取り付けてください。

■休止フック掛け

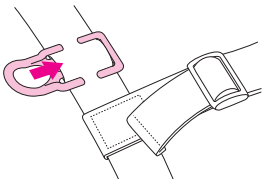
①休止フック掛けをベルトの下側へ通す。



②下側へ通した後、ベルトに引っ掛ける。

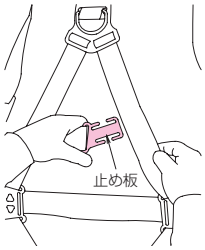


③すべての部分にベルトを引っ掛けて完了。

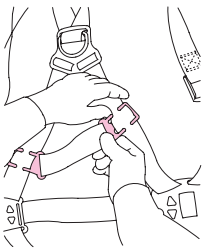


■バックサポート

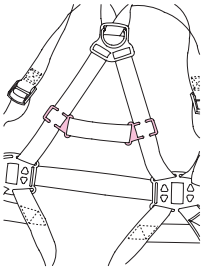
①バックサポートを肩ベルトの下側へ通す。



②下側へ通した後、止め板の爪にベルトを引っ掛ける。

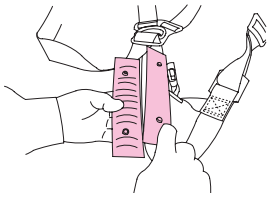


③左右の止め板の爪すべてにベルトを引っ掛けて完了。

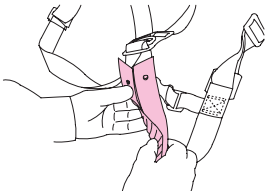


■簡易肩パッド「DP」

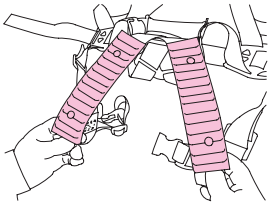
①簡易肩パッドのボタンをすべて外したうえで、肩ベルトに巻き付ける。



②簡易肩パッドのボタンを留める。

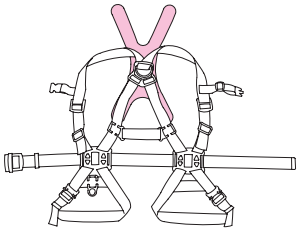


③完了

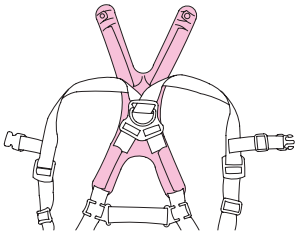


■背中用クッションパッド「CPB」

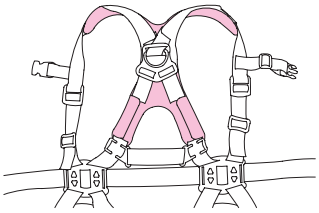
①D環部に合わせます。



②マジック部を止めてから、ホックを止めます。

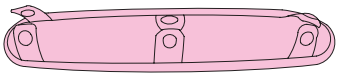


③完了

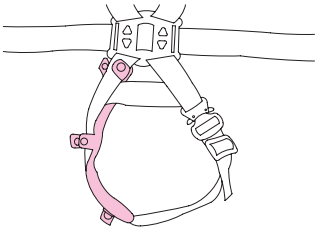


■腿（もも）用クッションパッド「CPL」

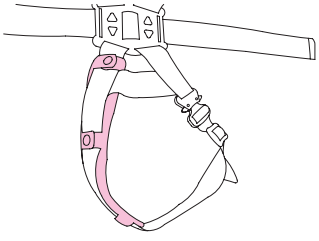
①ホックを外します。



②ベルトに装着し、ホックを止めます。



③完了



8.保守・保管

①ベルト、ロープの汚れは、ぬるま湯または中性洗剤を使って洗い、陰干しする。
②ベルト、ロープに塗料等が付いた場合は、布等でふきとる。溶剤を使ってはならない。
③金具類が水等にぬれた場合は、乾いた布でよくふきとった後、さび止めの油をうすく塗る。
④金具類の可動部は定期的に注油する。砂・泥・モルタル等が付いている場合はよく掃除して取り除く。
⑤直射日光や火気・放熱体・腐食性物質を避け、屋内の風通しがよく清潔な場所に保管する。
⑥子供が遊びに使ったり、動物が製品に損傷を与えたりしないよう注意する。
⑦新品のままでも使用せずに長期間保管する場合は、必ず内装箱又は袋などに入れた状態で、かつ、上記の⑤・⑥の内容に特に気をつけて良好な状態で保管する。

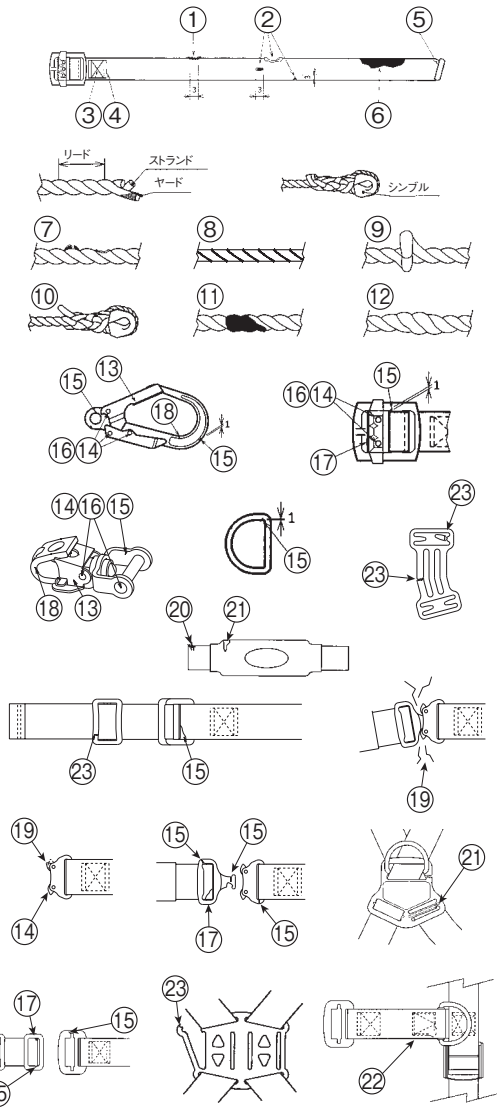
9.点検・廃棄

⚠ 警告 誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、やめてください。

①使用前に必ず点検を行い、廃棄基準に該当する箇所があれば廃棄し、新品に取り替える。その際は必ず、使用開始年月ラベル([10.交換の目安] 参照)に使用開始年月を記入する。
②少なくとも１ヶ月に一度は、＜点検チェックリスト＞に従ってより詳細に点検を行う。
③使用中に製品に異常があれば、ただちに使用を中止して再点検を行う。
④一度でも大きな衝撃を受けた製品は外観に変化がなくても廃棄する。

＜点検チェックリスト＞ ロープ式以外のランヤードをお使いの方は当該品の取扱説明書をご覧ください。

点検	点検項目	廃棄基準	
ベルト	摩耗・擦り切れ	3mm以上あるもの	①
	切傷・焼傷・溶融	3mm以上あるもの	②
	縫付け部分	ゆるみのあるもの	③
	縫い糸	切断されているもの／摩耗、擦り切れの激しいもの	④
	先端止め	変形・脱落しているもの	⑤
	薬品・塗料等の付着	薬品が付着したもの／塗料が付着したもの	⑥
ロープ	切傷・焼傷・溶融	1リード内に7ヤーン以上あるもの	⑦
	摩耗	摩耗して棒状になっているもの	⑧
	キンク	キンク(よじれてコブ状になること)しているもの	⑨
	シンブル	脱落しているもの	
	さつま編み込み部分	抜けているもの／ゆるんでいるもの	⑩
	薬品・塗料等の付着	薬品が付着したもの／塗料が付着し硬化したもの	⑪
	変形	形崩れしているもの／著しく縮んでいるもの	⑫
＜金具類＞ フック D環 バックル 調節金具	変形	変形が目視でわかるもの バックル及び調節金具の締まり具合が悪いもの フックの外れ止め装置・安全装置の作動の悪いもの リベットのかしめ部にガタ・変形のあるもの	⑬ ⑭
	摩耗・傷	深さ1mmの傷があるもの／わずかでもき裂があるもの リベットのカシメ部が1／2以上摩耗しているもの バックルとベルトの接合部が摩耗し、ベルトがゆるむもの フックのかぎ部の内側に少しでも傷のあるもの	⑮ ⑯ ⑰ ⑱
	操作	ワンタッチバックルが正しく結合できないもの 爪が正常に動作しないもの	⑲
	さび	全体にさびが発生しているもの	
	バネ	フック・バックルのバネが折損・脱落しているもの・動きの悪いもの	
	薬品・塗料等の付着	可動部・バネ等に塗料が付着し、拭き取れないもの	
ショック アブソーバ	摩耗・擦り切れ・切傷・焼傷・溶融	3mm以上あるもの	⑳
	擦り切れ・切傷・焼傷・溶融	カバーが破けて内部のベルトが露出しているもの	㉑
フロント D環部	仮止め部	仮止め部の縫い糸が切断しD環部分が固定されていないもの	㉒
その他	割れ・き裂	胸バックル・ベルト保持板・D環止め・ベルト止めに割れ・き裂があるもの	㉓



10.交換の目安

①使い方によっても異なるが、ハーネスは使用開始より3年、ランヤードは2年を目安に新品と取り替える。

②［9.点検・廃棄］の内容に従って点検を必ず実施し、廃棄基準に達したものは使用しないで、新品と取り替える。
※廃棄方法については、各自治体にお問い合わせください。

③D環止めの表側に取り付けられた「使用開始年月ラベル」に使用を開始した年月を必ず記入する。

＜使用開始年月ラベル＞

11.各部の強さ

項　目	安全帯の規格	試験結果(※)
肩・腿(もも)・胴ベルト	15.0kN以上	20.0kN以上
D環	11.5kN以上	20.0kN以上
肩・腿(もも)バックル	6.0kN以上	8.0kN以上
フルハーネス	11.5kN以上	15.0kN以上
衝撃吸収性	重さ85kgのトルソーをランヤード全長自由落下させて破断しないこと。 衝撃値は、8.0kN以下。 落下後のトルソーの角度は30°以下。	破断なし 衝撃値　5.0kN以下 角　度　15°以下 但し、ハーネス専用ランヤードを使用した場合 (全長1.7m・ショックアブソーバ付)

(※)試験結果は新品時における社内試験値です。使用による摩耗・紫外線暴露などで経年劣化します。

12.お客様相談窓口

この製品の使用方法等に関してご不明な点がありましたら、お買い上げの販売店、または下記までお問い合わせください。また、業務用途以外でお使いのお客様が、製品に起因する死亡や重大な怪我に至る事故にあわれたときは、お手数ですが下記までご連絡ください。これは改正消費生活用製品安全法の報告義務規定によるものです。

サンコー株式会社　本社営業部　TEL:06(6394)3541(代)　FAX:06(6395)0041
東京支店営業部　TEL:03(3352)5404(代)　FAX:03(3350)5320

安全帯と墜落防止機器のタイタン
サンコー株式会社

本社	〒532-0033	大阪市淀川区新高1丁目14番7号	TEL.06(6394)3541代表	FAX.06(6395)0041
東京支店	〒160-0004	東京都新宿区四谷4丁目25番5号	TEL.03(3352)5404代表	FAX.03(3350)5320
名古屋営業所	〒456-0056	名古屋市熱田区三番町22番15号	TEL.052(653)5770	FAX.052(653)5810
九州営業所	〒814-0164	福岡市早良区賀茂4丁目6番28号	TEL.092(873)0392	FAX.092(873)0948
北海道営業所	〒003-0813	札幌市白石区菊水上町三条3丁目52番18-2	TEL.011(832)0145	FAX.011(832)7895
東北駐在所	〒980-0822	仙台市青葉区一番町1丁目12番地20-501	TEL.022(797)9860	FAX.022(797)9851

2014.10-3,000SW